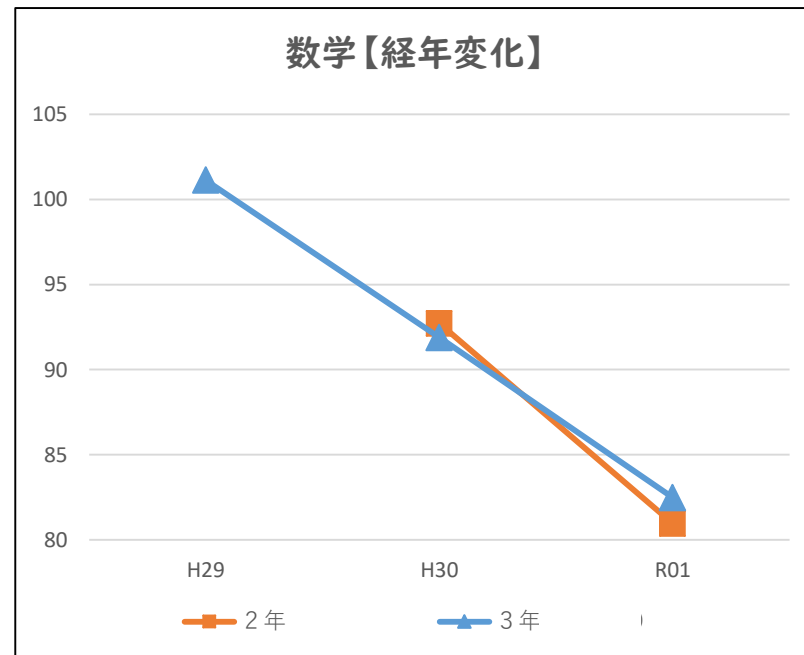
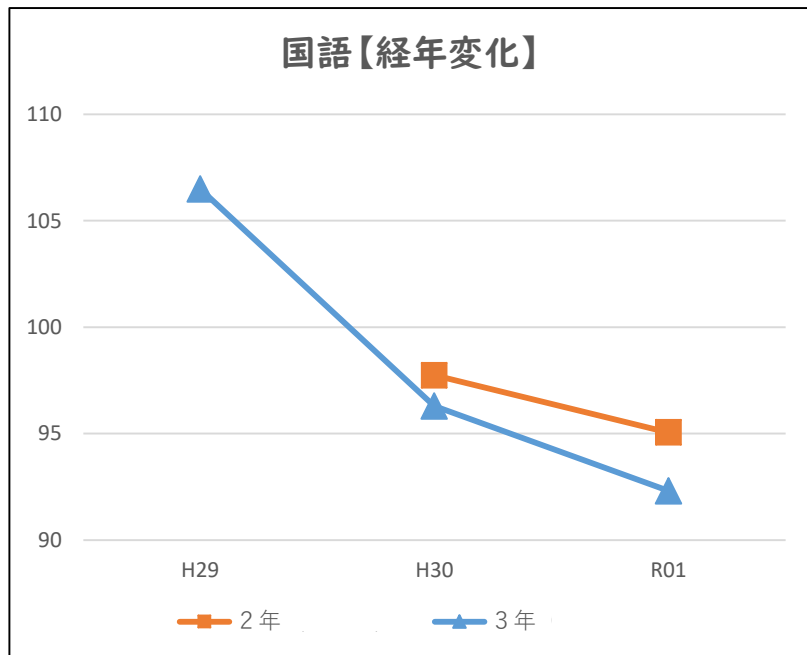


I 現状の把握（昨年度の釧路市標準学力検査より）

各学年の経年変化（目標値を100としたときの、各学年の状況）



○2年生の国語では、目標値を100としたときの到達度の割合が昨年度に比べて低下しているものの、下げ幅はそこまで大きくない。

○2年生の数学では、目標値を100としたときの到達度の割合が昨年度に比べ、10ポイント以上低下しており、大きな課題となっている。

○3年生の国語では、目標値を100としたときの到達度の割合が、毎年下がっている。昨年度に比べて4ポイント低下しており、課題と言える。

○3年生の数学では、目標値を100としたときの到達度の割合が、毎年10ポイント前後低下しており、大きな課題となっている。

II 各学年における昨年度の成果と課題、今後の取組 (○:成果 △:課題 ◇:継続する取組 □:新規の取組 ◎:改善する取組)

成果と課題について		今後の取組について
2年生	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○領域別正答率では、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が目標値を上回った。 ○観点別正答率では、書く能力が目標値とほぼ同程度、言語についての知識・理解・技能は目標値を上回った。 △基礎・活用では、目標値に対して基礎が3ポイント程度低いのに対し、活用が7ポイント以上低く、活用の方により課題がある。 △領域別正答率では、「読むこと」が目標値に対して9ポイントほど低く、「話すこと・聞くこと」がもっとも課題で18ポイントも低い。 △観点別正答率では、関心・意欲・態度と読む能力が目標値より6～10ポイント程度低く、話す・聞く能力は18ポイントも低く、非常に課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇条件を満たすような文章を作る、書く活動を單元の中で、適切に位置付けて継続して取り組んでいく。 □話す・聞く能力を伸ばすために、相手の状況(相手が何を考えているのか等)や場面設定などを考えさせることを通して、想像力を育む活動を取り入れる。(例:話し合いの場面を想定し、ある人物の発言によって話し合いの流れが変わったときにその発言がどのような発言だったかを考える穴埋め問題など) ◇家庭学習やモーニングテスト、授業での漢字テストを通して既習漢字の定着を図る。
	<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> △基礎・活用では、目標値に対して基礎が10ポイント以上低く、活用が14ポイント以上低い。 △領域別正答率では、全領域において目標値より10～12ポイント程度低い。 △観点別正答率では、関心・意欲・態度、知識・理解が目標値より10ポイント前後低く、見方や考え方、技能については13ポイント前後低い。 △数学全般的に目標値に及ばず、大きな課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇問題解決の授業を日常的に行い、思考力・判断力・表現力の育成を目指す授業改善に努めていく。 ◎学習内容の定着を図るための練習問題を解く時間を、今後より一層確保する。 ◇家庭学習の仕方、テストの活用の指導を通して、基本的な技能や知識のさらなる定着を図る。 ◇放課後学習等を活用し、特に下位層を対象とした講習会を実施することで、基本的な学習内容の定着を図る。
3年生	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> △基礎・活用では、目標値に対して基礎が4ポイント低いのに対し、活用が7ポイントほど低く、活用の方により課題がある。 △領域別正答率では、「書くこと」以外は目標値に対して2～6ポイント低く、課題ではあるが、「書くこと」が9ポイントほど低く、もっとも課題となっている。 △観点別正答率では、書く能力以外は目標値に対して2～6ポイント程度低く、課題ではあるが、「書くこと」が9ポイント低く、もっとも課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇◎今後も条件を満たすような文章づくり(主語と述語がねじれないような文章づくりや適切な接続詞を使った文章づくり等)を継続することで、書く能力の育成を図る。 ◇辞書を使った意味調べ活動を継続することで、今後も語彙力を高める。 ◇問題の意味を理解させ、意識して課題に取り組ませる。 ◇「書くこと」を授業に多く取り入れ、苦手意識を克服する。 ◇家庭学習やモーニングテスト、授業での漢字テストを通して既習漢字の定着を図る。
	<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> △基礎・活用では、目標値に対して基礎が9ポイント低く、活用に至っては14ポイント低い。 △領域別正答率では、「図形」領域は目標値とほぼ同値であるものの、「数と式」領域及び、「関数」領域は目標値より12ポイント以上低い。 △観点別正答率では、知識・理解が目標値より5ポイント以上低く、他の3観点に至っては目標値より11ポイント以上低い。 △数学全般的に目標値に遠く及ばず、大きな課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇問題解決の授業を日常的に行い、思考力・判断力・表現力の育成を目指す授業改善に努めていく。 ◎学習内容の定着を図るための練習問題を解く時間を、今後より一層確保する。 □基本的な技能や知識を身につけるための課題(宿題)を継続的に出す。 ◇家庭学習やモーニングテストの活用を図ることで、基本的な技能や知識のさらなる定着を図る。 ◇問題に具体的な事象を取り入れ、グラフや関係式から情報を分類整理し、表現する場面を多くつくる。

Ⅲ, 学校全体における成果と課題、今後の取り組みについて

① 成果と課題について

(授業づくり・環境づくり・習慣づくり) ○: 成果 △: 課題

授業づくり	<p>△今年度の校内研修では、主体的・対話的な学びを通して、学力向上を目指すための授業改善を行ってきたが、経年変化を見る限り、課題が浮き彫りとなった。</p> <p>○学力向上推進部を中心に、「学びの質」を高めるために校内研修の充実に努め、教員間の授業交流を通して授業改善に向けた取組が進められた。</p> <p>○加配教員を活用して、生徒一人一人のニーズに応じた多様な学びに対応し、基礎的・基本的な学習内容の定着に努めた。</p> <p>○小中連携に向けた道筋はつくられ、教職員間での授業参観・交流を行うことができた。</p>
環境づくり	<p>△学習室を開放して、放課後学習に取り組んでいるが、より学力向上が必要な生徒が進んで参加することは少ない。</p> <p>○各種調査の結果の分析を通して教職員間で課題を共有し、授業改善に向けた取組を進めることができた。</p> <p>○様々な学習の機会を設定することで、基礎的・基本的な学習内容の定着に課題を抱える生徒に対して効果がうかがえた。</p> <p>○学習規律の重点化と統一した指導により、落ち着いた雰囲気の下で学習を進めることができた。</p> <p>○小中連携による学びの連続の具体的な取組ができた。(理科)</p>
習慣づくり	<p>△モーニングテストの取り組みが学力向上に十分結びついていない。</p> <p>△家庭学習への取り組みに個人差があり、学力差にもつながっている。</p> <p>△生活習慣や家庭学習の取組に対する格差が、結果的に学習内容の定着の差となって現われた。</p>

② 改善の方向性について

(◇: 継続する取組, □: 新規の取組, ◎改善する取組 等)

◎学校は来年度1年間かけて、生徒の基礎・基本の定着を目指して、授業と家庭学習をつなげるような宿題を増やしていく。
◇学校は今年度同様に全ての授業において、単元および本時の目標(ねらい)を明確にし、「まとめ」や「振り返り」をする場面を確保することで、学習内容の定着を図る。
◇学力向上推進部を中心に、「学びの質」を高めるために充実した校内研修を進め、教師間の積極的な授業交流を通して授業改善を図る。
◇学校は習熟度別少人数指導(数学・英語)やTTにおける授業方法について、一人ひとりのニーズに応じた多様な指導方法の工夫改善を図る。
□学校は1年間を通して、放課後学習に参加する生徒を選別し、担任等から声かけをする。
◇学校は生徒の全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの結果を踏まえ、その改善に向け授業及び指導計画の見直しを行う。
◇学校は学習規律の重点化を図るとともに、教職員の統一した指導によって、生徒の日常の学習場面を意識させ、学習に集中して向かわせる雰囲気を醸成する。
◇学校は生徒の放課後学習及び長期休業中の「学習会」の充実を図る。学級担任と教科担任が連携して教育相談の充実を図り、学びに困っている生徒への支援を行う。
□学校は生徒に対して朝学習などの取り組みを行い、基礎・基本の定着を図る。
□学校は生徒の家庭学習を意図的に行うことで、学力向上を図る。
◇学校は引き続き、生徒に対して生活リズムチェックシートを活用して望ましい生活習慣の定着に向けた指導を行うとともに、家庭学習の「量と質」の向上を啓発する
◇学校は生徒の望ましい生活・学習習慣の定着に向け、学級・学校だより等で保護者・地域に対して啓発を図るとともに、学校ホームページを活用し情報提供を行う。